OFFSET関数

指定されたフィールドの基準とするレコードから、指定した行数に移動したレコードの値を返す

◇機能

指定したフィールドの各レコード位置を基準として、指定した行数に移動した位置にあるレコードのフィールドの値を返します。行数は、現在のレコードから下のレコードへ移動したい場合は正数で、上のレコードへ移動したい場合は負数で指定します。

（例）

- 「種類」フィールドで、1レコード下の値を取得する
  OFFSET([種類],1)

《新規フィールド追加》で左の式を実行すると、以下の「結果」の値が取得されます。

	種類
1	A
2	B
3	C
4	D
5	E

レコード1から見て、1レコード下（行数1）は、レコード2です。レコード1は、レコード2の値「B」を取得します。

	種類	結果
1	A	B
2	B	C
3	C	D
4	D	E
5	E	

移動先のレコードがない場合は、以下の値が取得されます。
●対象フィールドが文字型の場合：空欄
●対象フィールドが日付時刻型の場合：1900/01/01
●対象フィールドが数値型の場合：0

- 「数量」フィールドで、2レコード上の値を取得する
  OFFSET([数量],-2)

《新規フィールド追加》で左の式を実行すると、以下の「結果」の値が取得されます。

	数量
1	100
2	200
3	300
4	400
5	500

レコード3から見て、2レコード上（行数-2）は、レコード1です。レコード3は、レコード1の値「100」を取得します。

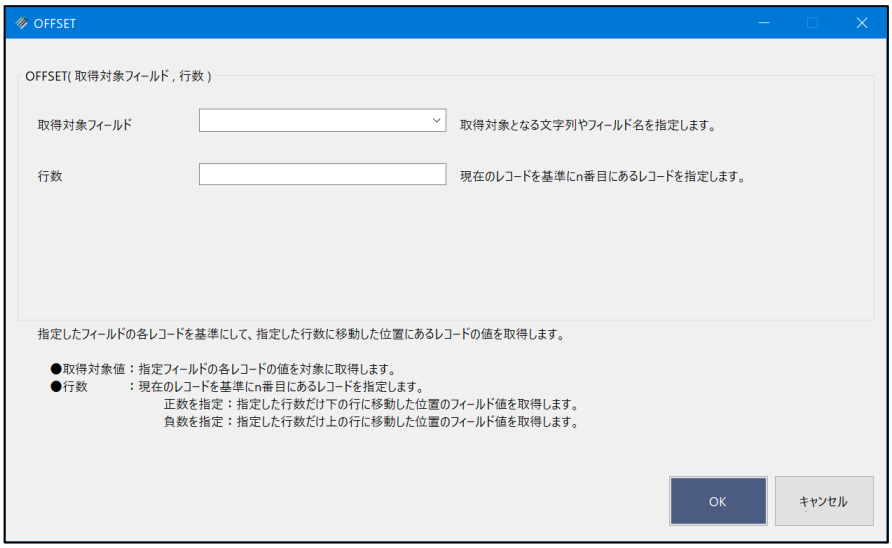
	数量	結果
1	100	0
2	200	0
3	300	100
4	400	200
5	500	300

© 2023 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇構文

OFFSET(取得対象フィールド,行数)

	引数	入力内容
1	取得対象フィールド	値を取得したいフィールド（文字型、数値型、日付時刻型）を指定します。
2	行数	移動したいレコード数を数値で指定します。 正数：現在のレコードから下のレコードへ移動する　（例）1 負数：現在のレコードから上のレコードへ移動する　（例）-1



◇戻り値のデータ型

取得対象フィールドと同じデータ型

◇使用例

- 商品の出荷間隔を調べる。
  - 「次の出荷日」フィールドの式（《新規フィールド追加》）　：OFFSET([出荷日],1)
  - 「出荷間隔」フィールドの式（《新規フィールド追加》）　：[次の出荷日]-[出荷日]

出荷日	次の出荷日	出荷間隔
2023/01/31	2023/02/02	2
2023/02/02	2023/02/03	1
2023/02/03	2023/02/06	3
2023/02/06	1900/01/01	-44,961

実務では、結果を検証する際、最終レコードの値は除外するなどの対応が必要です。

© 2023 SanKei Biz Consulting, Corp.